航空ファン

THE KOKU-FAN

★創刊 20 年記念

ワイドカラー

WIDE COLOUR

メッサーシュミット Bf109 G



☆特集☆

パタクセントリバー海兵航空基地ルポ

A-9・A-10他アメリカの新型機を斬る

3ch 19～25用 スケールRC機 "隼"

'72 SEPTEMBER 9

$2.30



ントン・ダレス空港で開かれたトランスポ72の地上展示機 写真は 海兵隊のF-8K クルーセイダー クルーセイダーの最後期の一群としてC型の胴体を強化し 兵装翼を新しくするなどの改造を施したのがK型 海兵隊用に87機が改造されている の機体 戦闘飛行隊機



地上展示機のスターF-14Aトムキャット。グラマン社でエレクトロニクス装備のテストなどに使っている原型13号機。トムキャットがアメリカで一般に公開されるのはこれが初めて。初日から6日間展示され、会期最中の2日、会場を離れるにあたって、低速飛行性や主翼後退の[illegible]をして飛び去った。展示中は仕切りの柵もなく、ごらんのように機体の下にもぐりこんで観察してもOK。







〔上〕SJ [illegible] のテイル・レターをつけた第4戦術戦闘航空団（4th TFW）の新し [illegible]
セイモア・ジョンソン空軍基地から飛来した第4戦術戦闘航空団第335戦術戦闘飛行隊の [illegible]
ゲールの尾翼が見える　ファントムは2機とも胴体側面と垂直尾翼に [illegible]
〔下〕海軍からの留学機で複座練習型の「TA-4J スカイホーク」 [illegible]
機である







(上) コースト・ガードのHC-130B。コースト・ガード所属機はこのほかHH-52A、HH-3Fヘリコプタも展示されたが、いずれもこのように赤い色が映えた派手な塗装。
(下) 米空軍の患者輸送機C-9Aナイチンゲール。DC-9シリーズ30を患者輸送用に改造したもので、空輸軍団(MAC)の第375輸送航空連隊(375MAW:イリノイ州スコット空軍基地)が多数装備しているうちの1機。患者輸送機にふさわしいおだやかで美しい塗装。





ジョイント・ボイズ ストラトフォートレス

M. K. Bowman

マーチ空軍基地で開かれたアメリカ戦略空軍の爆撃航法競技会に参加したB-52F。第52爆撃中隊第52爆撃飛行隊 "ラベンダー・バンディー" の所属機。



アメリカ戦略空軍（SAC）の爆撃航法競技会，1971年度「ジャイアント・ボイス」は，去る12月，フロリダ州のマッコイ空軍基地で開催された。今回は第18回目。アメリカ各基地から集った B-52 22機，KC-135 30機のほか初めてFB-111Aが2機参加し，イギリス空軍のバルカンB MK 2も3機が特別参加した。そのうちの主役ともいえるB-52フライングフォーレスの機首のマークを特集することにしよう。

(Photo by Mr. [illegible])





前回まで出場していたB-52のC型はすでに戦略空軍から退役しているので、参加するB-52はG、Hの各機。……イ・イン・デキシィ "アーノルド" ビッグ・カントリィ・ボマー などと……のマークをつけ……期を除らず驚異のナマー……多彩さ マーキングでファンを大いに楽しませてくれる





競技の結果，総合優勝はミシガン州キンチェロー空軍基地の第449爆撃連隊のB-52H（K 135）で，フェアチャイルド・トロフィーが贈られた。2位はジョージア州のロビンス空軍基地の第19爆撃連隊であった。爆撃機の航法と爆撃の部ではオハイオ州ライト・パタソン空軍基地の第17爆撃連隊が勝利をおさめ，マシィス・トロフィーとボーイング・トロフィーを獲得した。ナビゲーション・トロフィーはカリフォルニア州カースル空軍基地の第93爆撃連隊に贈られたが，この部隊はB-52Fを装備した最後の部隊である。

(Photos by K. Buchanan)





この"ジャイアント・ボイス"会日は，参加した乗員たちのために[illegible]，WU-2Cや[illegible]爆撃機の[illegible]のモックアップなどが展示されたほか，飛行ショーも行なわれている　なにはともあれ，機首側面の広いスペースに思いっきり描いた個性的なマーキングをごらんください
[illegible]





美しく ジャイアント・フェイス (B-52) 写真下 ワイトロマ キングの機体はサウスダコタ州エルスワース空軍基地の第28爆撃航空団第77爆撃飛行隊の所属機である



"トランスポ72"の大戦機



P-63キングコブラ。"コンフェデレート空軍"の"ゴースト スコードロン"所属機で 戦後しばらく地上に展示されていたが，1965年に同"空軍"の所属となって以来，アメリカ各地を飛びまわっている。



珍しく、トランスポ72'（1席のスピットファイアF.Mk.IX。アメリカに現存する飛行可能なスピットの1機で、このショーでも見事な飛行を披露した



グラマン J2F-5ダック水陸両用飛行機。空母に積まれて救難機として使われ コースト ガードにも装備されていた。 現存する飛行可能な本機は珍らしい。これはフランク トールマン氏が所有する機体で コロンビア エアクラフト製の1機

MESSERSCHMITT *Bf109F*

1·2 Bf109F-4 OF 1/1 FIGHTER SQUADRON HUNGARIAN AIR FORCE
3 Bf109F-2 OF JG.54 GRUNHERZ
4 Bf109F-4/B FLOWN BY OBERLEUTNANT LESENDAHI OF 10/JG.2 "RICHTHOFEN"

1·2 Bf109F-4 [illegible]
3 Bf109F-2 [illegible]
4 Bf109F-4/B [illegible]









メッサーシュミット　Bf109F

MESSERSCHMITT BF109F

第2次大戦中ドイツの代表的戦闘機として活躍したBf109は、原型のV1からK型に至る各型が試作または量産され、大戦前半のドイツ軍主力戦闘機として各戦線で威力を発揮した。大戦中のドイツ単座戦闘機の総生産数のうち約60%にあたる30500機以上が生産されたといわれている。

☆キット紹介☆

レベルから発売中のBf109はF型とG型の2種があって、どちらもプラプレーンキットの傑作と定評のある最高水準の作品で、精巧なエンジンを内蔵し、コクピット内部も精巧そのものの仕上りである。各動翼が可動してキャノピーや主脚なども実物同様に可動するという本格派で、特に機体表面の仕上りはバツグンのものである。付属デカールは有名なエース〔マルセーユ〕と〈メルダース〉機2種と熱帯地（Trop）迷彩のJG53所属機の3種が付いている。

☆塗装について☆

図①と② Bf109F-4で機体の上・側面はRLMグレイ(37+1)の地色の上にダークグリーン(17)の迷彩があり、翼上面はRLMグレイとダークグリーンのスプリンター・タイプ迷彩と推定され、下面はライトブルー(20)で、機首と翼端および胴体の帯が黄色(4+30)、垂直尾翼と水平尾翼はレッド(3+30)と白およびライトグリーン(6+27)、スピナは黒と黄となっている。

図③ JG54のF-2で機体の上・側面はライトグレイ(37+1+30)とダークグリーン(17)の迷彩、下面はライトブルー(20)、翼上面は胴体と同じパターンかダークグリーン系のスプリンター・タイプ迷彩と推定される。

図④ JG2所属のF-4/Bで機体の上・側面がライトブルー(20)とRLMグレイのはん点迷彩があり、胴体の背はダークグリーン(17)、下面はライトブルー(20)で翼上面はダークグリーン(17)とブラックグリーン(18)のスプリンター・タイプ迷彩、スピナは白となっている。

(K. Hashimoto)

Bf109Fデータ (nominal data)

全幅 (span) 9.92m　全長 (length) 8.85m　全高 (height) 2.59m　翼面積 (wing area) 16.2m²　全備重量 (gross weight) 2,740kg　発動機 (engine) ダイムラーベンツ (Daimler Benz) DB601E-1 (1,300HP)×1　最大速度 (max. speed) 630km/h/6,700m　実用上昇限度 (service ceiling) 11,300m　航続距離 (range) 710km　武装 (armament) 15mmMG151×1、7.9mmMG17×2　乗員 (crew) 1。

The Bf109 was the representative German fighter during WWII. Especially during the early years of the war this fighter exercised its power over every front in Europe. The original test-manufactured type was V1 and the last production type was Bf109K. The total number of planes produced reached 30500 or 60% of all German single seat fighters produced during WWII.

KIT

Two kinds of kits, Bf109F and Bf109G, are now sold by Revell. Both have established reputations as masterpieces of plastic model plane kits, especially noted for excellent surface finishes. There is no need to mention the elaborate engine, cockpit, moveable canopy and gear. Attached are three decals of Hans-Joachim Marseille, Lt Colonel Molders and a JG 53 fighter in tropical camouflage.

PAINTING

Figs 1 and 2. Bf109F-4. The top and sides are painted in Revell Colors 17, 37 and 1 RLM gray with a camouflage of RC17 dark green. The upper surfaces of the wings have a splinter pattern camouflage of RLM gray and dark green. The lower surfaces are RC 20 light blue, while the nose, wing-tips and the fuselage belts are RC-4 and 30 yellow. The fin and the stabilizer are colored in RC 3 and 30 red, and RC 6 plus 27 light green and white. The spinner is black and yellow.

Fig 3. This is a Bf109F 2 of JG 54. The top and sides are camouflaged with RC-37, 1 and 30, light gray, and RC 17 dark green. The lower surfaces are RC 20 light blue, while the upper wing surfaces are supposedly painted in a splinter pattern camouflaged with dark green.

Fig 4. Bf109F-4/B belonged to JG 2. The top and sides are dot camouflaged with RC-20 light blue and RLM gray except the fuselage top which is RC-17 dark green. The lower surfaces are RC 20 light blue while the upper wing surfaces are camouflaged in a splinter pattern with RC-17 dark green and RC 18 black green. The spinner is white.

(K. Hashimoto)

Bf109の塗装に必要なレベル カラー

①ホワイト	③レッド
④イエロー	⑰ダークグリーン
⑱ブラックグリーン	⑳ライトブルー
㉚フラットベース	㊲グレイ75
㉜機体内部色	⑥グリーン
㉝黒つや消し	㉘シルバー



メッサーシュミットBf 109G-2戦闘機 工場で完成し，部隊への引渡しを待っているところ。機体の塗装は主翼上面ならびに胴体背面がグレイ74とグレイ75のスプリンター迷彩，下面と側面はライトブルー65だが，側面のみグレイの不規則な斑点になっている。主翼の国籍マークは白ふちだけである

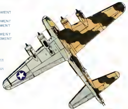
メッサーシュミット　Bf109E-4

攻撃に向うBf109E-4　ルフトヴァッフェが勝利の進撃をつづけていたころの機体。画質はよくないが、当時のカラー写真で　貴重な資料でもある



① B-17E OF 97TH BOMBERDOMENT GROUP 8TH AIR FORCE
② B-17F OF 359TH BOMBERDOMENT SQUADRON 303RD BOMBERDOMENT GROUP 8TH AIR FORCE
③ B-17F OF 365TH BOMBERDOMENT SQUADRON 305TH BOMBERDOMENT GROUP 8TH AIR FORCE

① B-17E 第8空軍第97轟炸大隊機
② B-17F 第8空軍第303轟炸大隊第359轟炸中隊機
③ B-17F 第8空軍第305轟炸大隊第365轟炸中隊機









ボーイング B-17F フライングフォートレス

BOEING B-17F FLYING FORTRESS

第２次大戦中のアメリカ爆撃機として不朽の名を残したＢ-17は「空の要塞」の名で大戦前から世界にその名をとどろかせていたが、特にヨーロッパ戦線での活躍が有名で、ドイツ本土昼間爆撃の主力としてB-24とともに壮烈きわまる空の死闘を展開してドイツに決定打をあたえた勇者であり、大戦後期に出現した本格的な戦略爆撃機B-29や現代の戦略爆撃機の草わけ的な爆撃機として、航空史上永遠に記録されるアメリカの４発機である。

☆キット紹介☆

B-17には初期生産型のYB-17から最終型G、救難型のHなどの各型があるが、対独作戦で主力となって活躍したＦとＧ型のうち、レベルのキットでＦ型が発売されている。スケールの大型キットで、爆弾倉の扉や脚、砲塔、各動翼などがオール可動式というデラックス版。各部のモールドも精巧そのものであり、B-17Fの特徴をみごとに表現している優秀作品である。付属デカールは有名な第８空軍所属の「メンフィスベル」のものとなっている。

☆塗装について

図1と2　第８空軍第97爆撃大隊所属のB-17Eで、カムフラージュは英国機のパターンとなっており、ライトアース(21+22+1)とダークグリーン(23)の迷彩で下面はスカイ(13)、スピナは黒(33)。機首の文字は黄色でLITTLE SKUNKFACEが記入されている。また主翼の細い帯は左翼が赤(3+30)、右翼はブルー(5+30)となっている。

図3　第303爆撃大隊第359爆撃中隊のB-17F 27 BOで、機体の上面側面がダークオリーブドラブ(12)、部分的にメディアムグリーン(38+33)の迷彩があり、下面はニュートラルグレイ(13)の塗装。BN-Rの文字はグレイで、機首のマークは大形のスポイト状の筒と爆弾２個があり、２本の帯の間に２段の文字がある。文字はKNOCK OUT—DROPPER。スポイトのつまみだけが黒、白ふちつきでその他は白。垂直尾翼のＣの文字はインディアンブルー(5+30)。

図4　第８空軍第306爆撃大隊第369爆撃中隊のB-17F 10 BOで、機体の上面側面はオリーブドラブ(12)、部分的にメディアムグリーン(38、33)の迷彩があり、下面はニュートラルグレイ(13)の塗装。スピナはシルバー(8)で上部砲塔の下に黄のカギ十字１個があり、下部砲塔の上には黄のカギ十字３個が記入されている。機首の文字は黄(4)+(30)でAdorable、RD-Dの文字はグレイとなっている。　(K. Hashimoto)

データ (Technical data)

全幅 (span) 31.63m　全長 (length) 22.78m　全高 (height) 5.82m　発動機 (engine) ライトサイクロン (Wright Cyclone) GR-1820-97 (1,200HP)×4　最大速度 (max. speed) 510km/h　実用上昇限度 (service ceiling) 11,200m　航続距離 (range)　武装 (armament) 12.7mm×11　爆弾 (bomb) 5,440kg　乗員 (crew) 10

The Boeing B-17 is the American four engine bomber that will always be remembered in world aviation history as the pathfinder of the noted B-29 strategic bomber of wartime and other strategic bombers of the present. Even before WWII the name "Flying Fortress" was widely known throughout the world. However it was the outstanding achievements in the European theater during WWII that immortalized the name Flying Fortress. As the main force of daytime attack the "Flying Fortresses" together with B-24s made long sorties causing decisive blows upon German...

KIT

The B-17 include various types such as YB-17 the first production type B-17H, the search and rescue type B-17... the last production type etc. Those active in the war against Germany were the B-17F and B-17G.

Revell kit fans can enjoy the B-17F kit in its 1/72 ser... This is not only large in size but also perfect in every deta... with moveable door of the bomber magazine gear gunhou... and subsidiary wings. The excellent kit faithfully prese... the image of the star bomber of WWII. Attached is a dec... of "Memphis Belle" of the 8th Air Force.

PAINTING

Fig. 1 and 2 This is a B-17F belonging to the 97th Bomb... Wing 8th Air Force. It is camouflaged in the pattern ... British aircraft with light earth (Revell Colors 21 22 a... 1) and RC 23 dark green. The fuselage bottom is RC 1... sky. The spinner is RC 33 black. Letterings on the n... read 19" and "LITTLE SKUNK FACE" in yellow. Wi... stripes are RC 3 plus 30 red for the left wing and RC 5... and 30 blue for the right.

Fig. 3 B-17F 27 BO flown by the 359th Bomber Sqdn. 303r... Bomber Wing. The top and sides of the fuselage are RC... dark olive drab with a partial camouflage of RC 38 and ... medium green. The lower surfaces are RC 13 neutral gra... The letters "BN R" are also gray. A large dropper and tw... pieces of bomb are depicted on the nose. Letters on th... marker read in two lines "KNOCK OUT DROPPER". T... bulb is black framed in white. The vial is white. Th... letter C on the fin is RC 5 Indian blue.

Fig. 4 B-17F 10 BO belonged to the 369th Bomber Sqd... 306th Bomber Wing 8th Air Force. The top and sides ... the fuselage are RC 12 olive drab, partially camouflag... with RC 38 and 33, medium green. The lower surfaces ... RC 13 neutral gray. The spinner is RC 8 silver. A yell... swastika is seen below the upper turret and three ot... below the lower turret. The letters "Adorable" on ... nose are RC 4 and 30 yellow. The letters RD-D are gr...

(K. Hashimot...)

B-17の塗装に必要なレベルカラー

①ホワイト	③レッド
④イエロー	⑤ブルー
⑧シルバー	⑫オリーブドラブ
⑬ニュートラルグレイ	㉓ダークグリーン
㉑マトルストーン	㉓スカイ
㉚フラットベース	㉝黒つや消し
㉒ダークアース	㊳オリーブドラブ



ボーイングB 17Fフライングフォートレス爆撃機　イギリス [illegible]

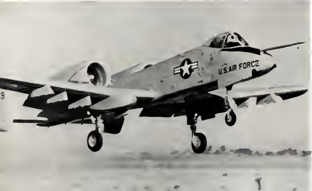


B-17G　フライングフォートレス

アメリカの空軍博物館に保管されているB-17G。同博物館では 1957年8月にこの機体を入手して以来、いろんな塗装にして展示しているが 写真では第38爆撃大隊のものになっている。

フェアチャイルド A-10A

5月10日 競争相手のノースロップA-9Aにさきだってエドワーズ空軍基地で初飛行に成功したフェアチャイルドA-10A 米空軍のAX次期対地攻撃機の候補である同機は ひきつづいて同基地でテスト飛行が行なわれている A-10Aは2号機も完成し C-5でエドワーズに運ばれており まもなく初飛行する




11369
U.S. AIR FORCE

ロールアウトした F-5E "タイガーII"

8月23日カリフォルニア州のノースロップ社ホーソン工場をロールアウトしたF-5EタイガーII 1号機。5Eは米空軍の対外軍事援助用のインターナショナル・ファイターとして1970年末の契約で開発がスタートしたもの。F-5Aの高性能化をはかって推力の大きなJ85-GE-21を積み、電子装備も新しいものにして実用性が向上している。

1号機は予定よりも3カ月も早いロールアウト。1972会計年度中-26機、73年中-71機、74年中-128機と3年にわたって325機が造られることになっている。西翼端にサイドワインダーAAM各1基、機首左右に20mm砲-タイガー2で協同しての登場である。







訓練中のMiG 21フイッシュベッド

MiG 21 Fishbed [illegible]

ソ連空軍のMiG 21 飛行訓練中の最新のスナップ フィッシュベッド… 待機中の各機 手前の2機は複座練習型MiG 21UT（モンゴル）で その後方の4機はMiG 21PF（フィッシュベッドD） ソ連の戦闘機の公表写真は 離着陸や地上 …位置で写した…のものが多かったが 最近は…より高い位置から…ねらったりして 運動効果を考えるようになってきている 複座練習型の…のアングル写真は珍しい 上の写真は前ページの後方の4機のクローズアップ …エアーブレーキをおろし …ドラッグシュートを引いて着陸するMiG 21PF 高性能を考慮して…エプロンや滑走路の…（P…TASS）





鉾田陸軍飛行学校の99式双軽　Kawasaki Ki48 Type 99 Twin-engined [illegible]　Photos by Shunkichi Kikuchi





鉾田陸軍飛行学校の99式襲撃機

[illegible]



トランスポ'72の出場機 (続)

先月号につづいてワシントン・ダレス空港の「トランスポ'72」の出場機 上）地上展示場 C-5A、F-111F などが並べられた上空をダットイアーの飛行船がゆうゆうと舞っている 軍用民間機約200機が展示された



（上）主翼下にロケット弾ランチャーを装備した米空軍のO-2A （下）グラマンJ2F-4ダック水陸両用飛行艇 コロンビア・エアクラフト製の1機で カリフォルニア州の曲技飛行家フランク・トールマン氏が所有……





(上)相変らずのすばらしい 飛行で観衆を魅了したボブ・フーバーのムスタング 同氏はブロンコでも飛んだ





上左) ザ・フライング ピアス のステアマン 上右 珍しい新オートジャイロ（エア＆スペース モデル18-A



コンフェダレート







空港でオールド・ファンたちを驚かせたのは，コンフェダレート空軍の"ゴースト・スコードロン"所属の各機。テキサス州のリオグランデ・ハーレイに司令部をおくこの"空軍"は，なつかしの2次大戦機20数機種を保有，すべて就役当時そのままの塗装に再現して飛行を楽しんでいる物好的なファンたちで構成した特異な"空軍"である。左ページ下から2枚目P-38ライトニング。同"空軍"は，このほか[illegible]もう1機のP-38を持って[illegible]る。(同下)B-17フライングフォートレス。航測写真会社で使っていたのを購入し，第8空軍第303爆撃大隊機の塗装にしている。(上)フライング・タイガース所属機の塗装にしたP-40ウォーホーク。(中)海軍機のF6Fヘルキャット。(下)FG-1Dコルセア。海兵隊の第124戦闘中隊の塗装である

空軍





(上)B-17フライングフォートレスの飛行。"コンフェダレート空軍"機は2機が出場、飛行ショーでは1機また1機とすてつづけに編隊、編隊を組んで会場上空をゆっくりとまわって映画のシーンにあるような情景を再現してみせた。

(中)SBDドーントレスとTBFアベンジャー(右)の編隊飛行。ドーントレスは戦後民間に払い下げられ、メキシコなどで写真撮影に使われたのち、カリフォルニア州のある博物館に保存されていたのを購入したもの。アメリカに現存する飛行可能な2機のドーントレスのうちの1機であるという。

(下)P-39エアコブラ。戦後13年ものあいだテキサス州ダラスのラブ・フィールドに展示されていた機体。これも見事な飛行をして観衆をわかした。





パタクセントリバー

TUXENT RIVER NAVAL TEST CENTER

（続）

基地を見る







前号につづいて メ
ランド州パタクセント
ー海軍テストセンター
機 前ページと二〇ペ
は の基地を借りて
トを行な て るネー
ウェポンズ ラボレ
イ（海軍武器実験所）
P-3A。本機の詳細は
されていな が 胴体
し機首の出したままいレ
ムとその後方のアンテ
ーム 尾部の円筒状の
ばらなく細部がよくわ
写真の機体では尾部の
一型のレドームではず
ている。前ページ写真
ロックアイを搭載した
ありをうつってい





〔上　右〕テストパイロット・スクールのOV-1モホーク。陸軍から借りて使っているもの。テストパイロット・スクールではこのようにいろんな機種を装備して、パイロットの教育の資料としている。基地にはテスト施設が完備しており、CVAN 65エンタープライズの飛行甲板そっくりを地上に再現し、カタパルト制動着艦訓練施設もあって、エンタープライズ・ジュニアと呼んでいる
〔下〕同じくテストパイロット・スクールのT-1A練習機。尾翼にはスクールのエンブレムをつけている









(上)同じくテスト　イ
ト スクールのT 28B
登機。
(左　下)飛行テスト部門
(フライト　テスト　ディビ
ジョン)のOV 10 Aブロ
ンコ。
センターでは　1966年
、空母ケネディを使
てブロンコの艦上への離着
艦テストをおこなっている
ブロンコには艦載フックな
どの設備がないので　もっ
ぱら逆ピッチ　プロペラ
頼るテストであった。尾翼
に描いている白　マ　ク
飛行テスト部門のマークで
ある。







(上)飛行テスト部門の[illegible]クルーセイダー。(左)[illegible]れも飛行テス[illegible]の1機で同A 3Cビジ[illegible]ライ。

(下)第4艦隊航空偵察中隊(VQ 4)のEC 130Q。[illegible]の発する通信を中継し[illegible]世界中のいかなると[illegible]に伝える、とができる通信[illegible]胴体底部にそのアンテナが見える。

VQ 4は1968年7月から[illegible]の基地に配属された新しい[illegible]TACAMO[illegible]通信機器をしたC 130を[illegible]って 大西洋の[illegible]をカバーしている。



フォート





（上 左 下 6月中旬）来日したコ
コルト102号機 東京国際空港の14番スポ
ットでのスナップである コンコルド
写真は これまで幾度となく目 して
おなじみの機体になっているが 近く
実際に目撃する感じはまたかくべつ。
い前脚に支えられた独特のS字形前縁
デルタ翼の下は まるでハンガーに
入ったよう 写真左は 4基のギ
主脚まわり、エンジン カバーをふ
て整備中である 下の写真で トルー
のついた主翼々端部の模様がよくわか
歩行中の人と比較すると 本機の首脚
いかに長いものであるかが想像できま



ニュース





(上 右 下)去る3月31日 エドワーズ空軍基地のフライトテスト センターで初飛行したノースロップYA-9A 先月号のアート[illegible]ーで紹介した[illegible]れはその雄姿である。
写真上 1時間の飛行を終えて着陸するところ 写真右 初飛行を担当したノースロップのベテランテストパイロット [illegible]ネルソン氏 同氏はノースロップ社の[illegible]評価部門の部長でもある
空軍の地上支援攻撃機AXの要望に答えて [illegible]の成績を生かし 4年の歳月をかけて開発した攻撃機のA-9A フェアチャイルドのA-10Aと[illegible]となった その成り行きが注目される







〔上〕来る8月初頭にロールアウトしたノースロップF-5Eタイガー II 制空戦闘機。F-5Aをもとに開発されたF-5Eは、新興諸国空軍向けの国際戦闘機として開発されているもので、推力の大きなG.E. J-85GE-21エンジンを積んでペイロードや航続力、運動性能などを向上したもの、電子装備や火器管制装置も新しくなって、実用性能が大はばに向上している。〔左〕上と同じF-5Eの1号機で、カリフォルニア州ホーソンのノースロップ工場最終組立てショップで完成まぢかのスナップ（手前）。工場内には6号機までの各部分が運び込まれて、最終組立て段階に入っている。1号機の初飛行は、この8月か9月に行なわれる。〔下〕機首に対潜電子装置のアンテナをつけてテスト飛行中のS-3Aバイキング



〔下〕哨戒飛行中のベリエフBe-6飛行艇 1949年頃に生産された旧式機であるが、これは最近のスナップ。機首胴体上部出っ張りのついたほかは、まして新しい装備はみられない（TASS）





北ベトナム空軍のMiG-21

このページは北ベトナムの防空に活躍している同国空軍のMiG-21戦闘機。同空軍は着実に装備の増強をはかっているもようで、この4月末には初めてトンキン湾上の米艦船に攻撃を加えるなど、その活躍のほどがうかがわれる。写真右の機体は、主翼下に空対空ミサイル"アトール"を装備しており、左の飛行中の機体も、同じ空対空の"アルカリ"と思われるミサイルを装備している。





スナップ だより





（上）5月末には いらんな 順のC 1機が横田基地 飛来 たが れもその1機でLNの コード レターをつけた1機 昭島市 倉島利明（左）れ も このほど横田基地に飛来した VAQ 35のKA 3B テイル レターヌND 東京都 塩島 敏典撮）（下）テネシー州空軍のC 124 8月中旬 横田基地 て（川崎市 山口智史）（最下 段）エンジン1発を空輸して羽 東京国際空港に到着したパン アメリカンの番 747（大阪府 伊 藤直行）

投稿される皆さまへ くすま 真をカ ト ます から ュ 者の氏 のまか込 のあるスナ フォ ュ 、 鋭イア ト ~ 者が どんどん採用したいと 思っております どうぞふるっ てご投稿下さい イズはキャ ビネ版を標準とします（係





メッサーシュミット　Bf109G

MESSERSCHMITT Bf109G

●Bf109G　Bf109FのDB601Eエンジン（1,300HP）をDB605A（1,475HP）に換装して性能の向上をはかったのがBf109G。G-0はFのGシリーズの増加試作機で12機造られたが、DB605Aエンジンがまにあわず、F型と同じDB601Eエンジンのままであった。G型の特徴である胴体側面のふくらみも、機首上部の機銃がMG17なので、まだついていない。





(上)Bf109G-2/R1。Gシリーズの最初の量産型G-1とほとんど同時に造られたのが戦闘機型のG-2。G-2ではG-1の与圧室をやめて、武装も機首のMG151(20mm)1門を廃止し、機首上部のMG17(7.92mm)機銃2挺のみに減らしている。G-3、G-4もほぼ同じ頃に完成しているが、G-2は戦闘に参加した最初の型である。写真のG-2/R1は胴体下にSC500爆弾を搭載するために改造されたもので、そのための補助車輪(爆弾の後方に写っている)は、離陸後パイロットの操作で投下され、落下傘で回収されるようになっていた。





〔左ページ下〕Bf109G-5/Trop. G-5はMW50水メタノール噴射装置付きのDB605Dエンジン（1,450HP）装備としたもの。機首上部の2挺の機銃もこの型からMG131（13mm）に統一されてエンジン・カウリング上部の両側に独特の"こぶ"状のふくらみがつくことになった。写真は熱帯用装備をしたTropで"こぶ"の前方の過給器吸気口に砂じんフィルターをつけている。

〔上〕Bf109G-6。Gシリーズのうちもっとも多く生産されたのがG-6。DB605DのほかAS、AMと1,450HPから1,800HPの数種のエンジンを積んでいる。写真の機体はアフリカ戦線の第27戦闘大隊（JG 27）のG-6で、両主翼下のフェアリングに、対地攻撃用のMG151（20mm）機関砲を装備している。

〔下〕同じくBf109G-6で、イギリス軍に捕獲されたもの。この機体も両主翼下にMG151機関砲を装備している。胴体下は300ℓのドロップ・タンク





〔上〕Bf109G-10．G-10は離昇出力を大きくするため,噴射装置付きのDB605Dシリーズエンジンを積むために改造されたもの。Gシリーズのなかでは最高速で，海面上での最大速度342～426mph（550～686km/hr）という性能であった。写真の機体は対ソ作戦用にフィンランドに供与された70機のうちの1機で，後部胴体部側に書かれている"MT 501"は，Me109を意味するMTとシリアルナンバーである。

〔下〕Bf109G-14．G-14はG-6と同じように，DB605エンジンのAとDの各型を装備でき，武装も機首のMG151/20 1門，機首上部のMG131 2門の標準装備のほか，両主翼下にMG151/20 2門かロケット弾砲を装備できた。さらに胴体下部にETC250kg爆弾架を付けて，戦闘爆撃機としても使われている。Gシリーズでは実戦に参加した最後の型でもある。砂じんフイルターを付けたG-14Tropのほか，尾部を木製にしたG-14/R2，冷却器などの防弾を強化したG-10なども，これをもとに造られている。





（上）アメリカ軍の手に入ったBf109Gの1機。1945年10月8日の撮影。



（中・下）これも米軍が入手してテストしたBf109G。[illegible]をつけた[illegible]で、その[illegible]。両とも1944年[illegible]月[illegible]日の撮影。



未発表 陸軍機写真集

©菊池俊吉



鉾田陸軍飛行学校
HOKOTA ARMY FLYING SCHOOL

Kawasaki Army Type 99 Twin-engined Light Bomber (Ki.48-I)s of Hokota Army Flying School. The Hokota Army Flying School was established in July 1940 for Army bomber crew training. And it was equipped with Ki 30, Ki 32, Ki 48 Light Bombers and Ki 51 Attack/Reconnaissance Airplane.



前頁左の1式(はっし)写真で… 陸軍… 今回は館林陸軍飛行学校の各機である 爆撃機搭乗員の教育訓練のため 昭和15年7月 開校され 館林飛行学校では 97式重爆 99式双軽 99式双軽 99式襲撃 軍偵などを使用している 前ページとこのページは 同飛行学校の「主力機」ともいえる1式双発高等練習機(キ54 本機は500kg以下と爆弾搭載量 そう少なかった 運動性の抜群で 操縦性もよく 昭和15年 制式採用されて以来 中国戦線から太平洋戦と陸軍航空部隊の行くところ ほとんど全戦域にわたって使用されている

写真の機体は いずれも 2基エンジン装備の1型 写真を背景 編隊飛行中の右の写真で 金鵄 や みかま… くぐ と うニックネームが付けられた特徴ある側面型がよくわかる 尾翼のマークは鉾田の字を図案化した同飛行学校のエンブレムで 中央の十字の先端は鉾の形をしている 写真上と下でクローズアップされている広視界の機首には 7.7mmの銃座が設けられていたが 銃架は射撃時 上下 スライドとして 射手は楽な姿勢で射てるようになっていた 写真下の機体は上側面暗緑色の迷彩塗装である



Kawasaki Ki.48 Light Bomber taxiing on the runway at Hokota Army Flying School



上　滑走中の双式双発軽爆　同じく鉾田飛行学校での撮影である。　これは[illegible]の1機で　1型エンジン　[illegible]の取入口[illegible]　ナセル上面の気化器空気取入口[illegible]
ある　これも1型で　エンジン　カウリング下面の滑油冷却器取入口が前縁までのびている　2型は　[illegible]外観上の特徴　操縦者後方の[illegible]

Mitsubishi Ki.30 Light-Bombers of Hokota Army Flying School in practice formation flight. The J.A.A.F's first single-engined monoplane light-bomber, the Ki.30 featured bomb-bay capable of housing a maximum of 400 kg of bombs.



同じく鉾田飛行学校の九七式軽爆撃機（キ30）。本機は日本陸軍最初の単発単葉軽爆。昭和13年春に制式採用され、日華事変から太平洋戦争にかけて地上軍の援護に活躍している。固定脚ではあったが、中翼単葉とし[illegible]て胴体内の爆弾倉[illegible]、[illegible]爆弾搭載できるだけ[illegible]備蔵するなど[illegible]た。





Mitsubishi Ki.51 Attack Reconnaissance Airplane of Hokota Army Flying School. As a assault and reconnaissance airplane, the first Ki.51 entered service in China theatre and actively fought in the Pacific war on each front





89式双軽爆撃機の後席と座席で装備されていた89式7.7mm旋回機銃のクローズアップ。89式はコルト（ブローニング）系の機銃で、固定、旋回とも陸軍ではもっとも多く使われている。機銃の重量は24.1kg、初速810m/sec、発射速度は毎分900発であった。
左の写真では下方に、上の写真では上方に蓋をつけている。銃身の上部にはボックス・マガジン（弾倉）がセットされ、その前方にリング状の照門、先端には照星が立てられている。



スピットファイアの戦闘記録 (その13)

Mk XIV 12 つづく グリフォン・エンジン装備の量産型がスピットMk XIV (14 Mk XIIが低空戦闘型であったのに対して高空での性能も良い Mk VIIIの機体を改造して2段2速スーパーチャージャー付きのグリフォン65 (2,050HP) エンジンを積んで5翅のロートル・プロペラを装備した

Mk XIVは第610と322スコードロンに配備されて1944年1月から実戦に参加して それ以後 第91スコードロンが各機とウエスト・モーリングを基地に飛行爆弾V1の迎撃に活躍している Mk XIV部隊によるV1の撃墜数は約300機 テンペストVに次ぐ最大の戦果を記録している

上 下 1943年10月 完成したものがMk XIV 本機はスーパーチャージャーや中間冷却器を装備したので機首が長いものとなり そのため垂直尾翼の面積を増やしている 写真上の機体は量産型4号機

写真の機体はマルコム風防であるが のちの機体は水滴型の風防となって 尾部も改造されている V1による偵察が迫ってからは 後部胴体にカメラを積んだ戦闘偵察型のFR Mk XIVEも造られている





F Mk XIVの戦闘記録で特筆されるのは新近「V-1」の迎撃である。これに参加したのは第91、322と610スコードロンの所属機。スピットファイアの各型が撃墜したV-1の総数は428機で、そのうち相当数がこのF Mk XIVによる戦果であるかもわかりました。本機は本空戦闘機として高性能を発揮。戦術空軍の28のスコードロンに装備。うち4スコードロンはF Mk XIVE装備であり、1944年1月1日、ジェット戦闘機Me262を最初に撃墜したのも第401スコードロンの本機であった。このページ上と次ページ下は DW-Dのコード・レターを付けた第610「カウンティ・オブ・チェスター」スコードロン指揮官機である。



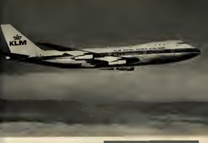






写真上：第610スコードロン所属のF Mk XIVcの1機。第610スコードロンは1936年爆撃の補助部隊としてフートン・パークで編成された部隊であり、1942年ヒギンヒルでスピットF IXを装備して戦闘部隊となり、本土防空戦に参加した。左：飛行中のF Mk XIVe。F Mk XIVまでの主翼を付けた機体もあらわれた。写真下：そのF Mk XIVeの1機。オランダの英空軍基地で作戦中のもの





(上) KLMでは昨年7月31日ボーイング747 Bジャンボ ジェットの1号機を受領 現在7機を就航させている。写真は1号機〔PH BUA〕 ミシシッピイ号 同社の747Bはすべて河の名前がつけられており2号機(PH BUB)以降は ダニウ" アマゾン(PH BUC) ナイル(PH BUD)"リオ デ ラプタス (PH BUE) ザ ライン (PH BUF) ザ オリノコ"(PH BUG)である。

(下) ダグラスDC 8-63 KLMは現在本機を11機所有しており その他の就機機は DC-8 53と-55が7機 DC 8 55Fが5機 DC-8 32とDC-9-15が12機 DC 9-32が7機 F 27が1機 ジャンボの7機を加えて合計51機である。

エアラインの翼

KLM オランダ航空 ⑯

(世界の航空会社の翼から KLMは今回で終って 次号から英国海外航空BOACの翼です。)





海兵隊のコルセア (その2)

(U S MARINE CORPS OFFICIAL PHOTOS)





〔左ページ〕第2海兵航空師団(2nd MAW)第212海兵戦闘中隊(VMF 212)のF4U-4コルセア　チェリー・ポイント海兵航空基地に駐留中の1948年の撮影で、ノースカロライナ州キルデヴィルヒルのライト・キティホーク記念碑の上を飛行中のもの。
〔上〕飛行訓練を終えて着陸、主翼を折りたたむF4U-1D　1947年8月　チェリーポイントにて　胴体国籍マークの部分の帯はリザーブ・ユニット(予備役部隊)の識別用で　インターナショナル　オレンジ。
〔右〕ヘンドルトン基地に着陸するF4U-4　これも1947年8月の撮影
〔下〕同じく1947年8月　チェリーポイントで訓練中のF4U-1D　これも第2航空師団の予備役部隊の機体である　左中…見える…4D輸送機





[illegible] 海兵隊航空基地に駐機するF4U-4 [illegible] VMF 311 [illegible]
テイル・レターは "MP"。（下）同じく1949年4月 エル・トロのF4U-4、第513海兵戦闘中隊（VMF 513）の所属機



[illegible]







……への輸送み……。グアム島の……基地で主翼を折……んで沖縄の……F4U。
……年1月11日の撮影で、第218海兵戦闘中隊（VMF 218）の所属機である。……の後部で一部機材を……
[illegible]



[illegible] ……パランジャ……運ばれたF4U-4 第2[illegible]海兵戦闘中隊（VMF 2[illegible]）の所属機。19[illegible]年8月14日の撮影。